

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 刈谷田福祉会	代表者	理事長 岸 弘道	法人・ 事業所 の特徴	共に生き、共に育み、「尊敬の心」「感謝の心」「謙虚な心」のサービスの提供に努めます。 自宅での生活の継続を望む方が、家族・地域との関係を断ち切ることなく、これまでと同じように地域で共に生活が送れるように支援していきます。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護みやざわ苑	管理者	佐藤 智子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0 人	0 人	2 人	0 人	2 人	1 人	0 人	3 人	1 人	9 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・改善計画を、すぐに取り掛かれるもの、時間を有するものに分類し、ミーティングでの情報共有を元に、バランスを取りながらすすめていく。	・全員でのミーティングは、なかなかできなかったが、ミニカンファレンスを積み重ね情報記載（記録、連絡ノート）・共有・周知し意見交換を行ない改善に向けて取組むことができた。	・自己評価に取組んでいることが伺えますので意見はないです。 ・全員で集まることは難しいと思われます。毎日のカンファレンスや連絡ノートなどでの周知に向けて今後もこのような対応を継続してください。	・ご本人らしい生活を自宅で送る事ができるよう、今後もそのかたの生活環境や状況、お気持ちをスタッフで情報共有・周知し寄り添う。
B. 事業所のしつらえ・環境	・面会で来苑された方にアンケートの協力をお願いする。（来苑時をお願いし、帰る際に回収させていただく。負担にならないように簡潔なものとする。）	・環境に関してアンケート実施できず、評価をいただくことができなかったが、整理整頓、季節・清潔感に気をつけ、明るい雰囲気を作りご利用者の作品掲示できた。	・ご利用者の家族に、会合や区の集まりで聞いてみたがなかなか話しながらない。意見はあるが言い難いのではないかな。 ・門や玄関と言うのは、どこまでを言うのか。→正面玄関だけでなく、小規模の入り口や全てを考えている。 ・入り口は明るく、プライバシーにも配慮があった。	・正面玄関の掃除は、継続して事務部と協働し清潔な明るい雰囲気作りに心がけていく。 ・施設フロアや事業所に、ご利用者の作品を展示、季節感、透明感、プライバシーに配慮し、入りやすい雰囲気と環境作りを継続して行ない、小規模新聞を掲示する。 ・来苑者やご家族へ話しかけ、話しやすい雰囲気作りに心がける。
C. 事業所と地域のかかわり	・利用者手作り作品（ぞうきんなどの日常生活品）を近隣の保育園などに配り、地域、世代間のかかわりの機会を増やしていく。	・配布作品を作る事ができなかったがグループホームと協働でゴミ拾い参加や地域の子どもたちの行事に呼んでもらい交流はできた。	・地元地域のかたや団体、老人クラブのかた達へ、視察と言う形で見ていただいたらどうでしょうか。 ・気軽に入っていけるような形で、誘導していったほうが良いのではないのでしょうか。（地域区長もいろいろ紹介していきたい。） ・地域密着型複合施設として、小規模だけではなく相談できる場所として、みやざわ苑はこんなところだと知っていただけるようアピールをしていく	・気軽に来苑していただけるよう、施設全体でみやざわ苑とはこんなところだとアピールしていく。 作品展示（ご利用者、園児、児童、老人クラブなど地域のかたの作品）し中に入っていいただけるようにしていく。 ・今後も、地域や保育園などの行事に参加させていただく。 ・グループホームと一緒にゴミ拾いの継続。

			ことが必要ではないか。 ・わしまでは、隣接している小学校や保育園のかた達から定期的に来ていただいている。中学生の俳句を掲示するなど取組んでいる。やっと道筋ができてきた。他の地域のかたには知られていない。入りづらいと思われるため、地域へのアピールしながら今後も施設に来ていただく機会を作っていきたいと考える。	
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	・地域行事、イベントへの参加を継続していく。 ・地域の店での買い物や食事のツアーを計画、実施し、馴染みのある場所との関わりを増やしていく。	・積極的に馴染みのある場所、行って見たい所への外出ができた。 ・チラシ（地域の窓口の記載あり）配布継続しアピール続けた。 ・地域資源（弁当配達、ふれあいごみ収集、安心システム、民生委員との連携など）を利用しつながりができた。 ・徘徊のある方の近隣のかた、近くのお店などから連絡をいただけるようになった。	・相談できる場所として浸透していないのが現状。 ・包括や居宅を経由しての相談はあるが、個人での相談はない。 ・地域の人達は相談など言いにくい。 ・地域に小規模新聞を2ヶ月に1回配布してもらい、施設全体の相談員の名前も入れてあるが相談はない。 ・この会議で発表してもらっているがそれだけ。出席しないとわからない。 ・地域との関わりの会議の1つがこの運営推進会議であるが、腹を割った話ができている。	・今後も、行きたい、見たい、馴染みの場所、地域行事、イベントなど参加し地域のかた達とのふれあいを続けていく。 ・小規模新聞を地域にこれからも発信していく。 ・いろいろな情報が集まる、運営推進会議を活用していきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・定期のミーティングで運営推進会議での意見や課題の情報共有と確認を行ない、改善解決に向け取り組んでいく。	・会議記録を回覧し情報共有することができ、次の意見が引き出せた。 ・近隣施設の協力を得て他職員の会議参加・助言をいただくことができた。	・個人情報の取り扱いは慎重を要するが行政、包括なども入っているこの運営推進会議で事例に基づいて検討がされると、つなぎやすいのではないか。 ・事業所だけでなく施設全体で考えていくべきである。	・小規模内で会議録回覧・周知し必要な事案は、情報共有と確認を行なう ・今後もミーティング、小規模会議で検討していく。 ・施設全体で共有し、気軽に相談できるよう働きかけていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	・事業所の取組みを理解してもらえるよう、回覧チラシでの発信を継続していく。 ・定期的に役割の確認を行ない、緊急時の対応に備える。	・近隣地域の協力を得て、小規模新聞を定期的に発信することができた。 ・地域の方参加の避難訓練が数回できた。 ・浸透にはまだ至らないが、動きや役割の確認ができた。	・雪害についてはどのようにしているか→車の中に毛布や水など必要な物を装備してある。（県から通知あり） ・緊急時の招集はどのようにしているか→緊急連絡網で召集している。 ・送迎はどうしているか→ご利用者の安全はもとより職員の安全確保必要のため、自宅環境、雪の状態、身体状況に応じて2人対応で行なっている。→とても良いこと。これからは安全に事故のないよう運行をお願いしたい。	・今後も事業所の取り組みを理解していただけるよう訓練参加をお願いしていく。 ・防災基本事項の掲示を続け、必要時説明を行ない小規模新聞や広報誌に役割を明記し掲載する。 ・備蓄品などは、法人として全体で考え対応を継続していく。 ・交通事故、送迎時の事故のないよう状況に応じ対応を行う。